

キリストの牧養は、召会を一つの群れとならせ、御父の家とならせる

聖書：ヨハネ 10:10-11, 15-17. 14:2-3

- I. ヨハネによる福音書によれば、命としての三一の神は召会を生み出します。「召会」という言葉は用いられていませんが、多くの節は召会を暗示しています——ヨハネ2:16-22. 3:26-30. 10:16. 11:52. 12:24. 14:2-3. 15:5. 17:11, 21-23。
- II. キリストは良い牧者であり、羊のためにご自身の命を捨てました。それは神聖な命において、一つの群れ、ひとりの牧者となるためです——ヨハネ10:16：
- A. 主イエスが良い牧者として来たのは、わたしたちが命を得、しかも豊かに得るためです——10-11節。
- B. 良い牧者は、ご自身の人の命を捨て、ご自身の羊のために贖いを完成しました。それは彼らが彼の神聖な命にあずかるためです——11, 15, 17節。
- C. 主は良い牧者として、牧場であるご自身をもって、またご自身の中でわたしたちに食べさせることによってわたしたちを牧養します——9節：
1. 牧養の働きは、食べさせる働きです——マタイ 9:36. 14:14-21。
 2. 牧場は、羊に食べさせる場所としてのキリストを表徴します——ヨハネ 10:9：
 - a. 今日わたしたちの牧場は、命を与える霊としての復活したキリストです——11:25. I コリント 15:45 後半。
 - b. わたしたちは日常のクリスチャン生活において、自分が牧場におり、命の豊かな供給としてのキリストを享受しているという実感を持つべきです。
- D. 主は良い牧者として、神聖な命の中でわたしたちを導き、案内し、方向づけています——ヨハネ 10:14, 27-30：
1. 主は、命の中で内側からわたしたちを牧養します：
 - a. わたしたちの内側にはわたしたちの牧者、すなわち、命の牧者また命の中の牧者としての彼がおられます——10節。
 - b. 生けるキリストはわたしたちの牧者として、わたしたちに命を与えるだけではありません。彼がわたしたちの命です——10節. 11:25. 14:6. コロサイ 3:4。
 2. キリストは、わたしたちにとって命であることによって、またわたしたちの中で生きることによってわたしたちを牧養します。彼がわたしたちの内側で生きるとは、実は彼が牧養することです。
- E. 良い牧者としてのキリストの牧養の下で、「一つの群れ、ひとりの牧者となる」——ヨハネ 10:16：
1. 一つの群れは、一つの召会、キリストの一つのからだを表徴します。それは主が彼の死を通して、彼の永遠の、神聖な命を彼の肢体の中へと分け与えることによって生み出されました——16-18節. エペソ 2:14-16. 3:6。
 2. 主は彼の牧養の下でユダヤ人信者と異邦人信者を一つの群れ、すなわち、一

つの召会、キリストのからだへと形成しました——ヨハネ 10:10-18. エペソ 2:14-16. 3:6。

3. 主の羊は神聖な命を受けました。そしてその神聖な命によって、羊は一つの群れとして共に生活します。

4. 主は良い牧者として、わたしたちを共に群れとさせます——ヨハネ 10:16. ルカ 12:32. 使徒 20:28. I ペテロ 5:2-3. 参照、イザヤ 40:11。

F. ヨハネ第 21 章は、牧養についての章であり、ヨハネによる福音書の完成と結論です。牧養はヨハネによる福音書のかぎです：

1. もしわたしたちが牧養が何であるかを知らないなら、ヨハネによる福音書全体はわたしたちにとって空虚なものとなります。わたしたちは他の人たちを牧養するとき始めて、ヨハネによる福音書を内在的な方法で知ることができます—— 3:16. 4:10, 14. 10:9-18. 21:15-17。

2. ヨハネによる福音書は、キリストが来てわたしたちをはぐくみ養うことによってわたしたちの命となることについての書です。他の人たちをはぐくむことは、彼らを幸いにし、喜ばせ、心地良くすることです (マタイ 9:10. ルカ 7:34)。また他の人たちを養うことは、すべてを含むキリストをもって彼らに供給することです (マタイ 24:45-47)。

3. 主は復活の後、使徒たちの務めとご自身の天の務めとを合併させて、神の群れ、召会を顧みており、その結果キリストのからだをもたらします——ヨハネ 21:15-17。

III. 主イエスは御父の家のために命の中でわたしたちを牧養しています。御父の家は、手順を経て究極的に完成された三一の神と、彼の贖われ、再生され、造り変えられた選民からなる神性と人性との合併です——ヨハネ14:2-3：

A. わたしたちは、ヨハネによる福音書において啓示されている命と建造を見る必要があります：

1. 命は建造のためであり、建造は命から出てきます—— 11:25. 14:2。

2. ヨハネによる福音書が啓示しているのは、三一の神がご自身を命として彼の信者たちの中へと分与し、この分与の結果として、信者たちが神の建造、すなわち、彼の拡張、拡大、団体の表現となるということです—— 1:4. 10:10 後半. 11:25. 14:2-3, 6。

B. 主イエスは復活においてさらに大きな方法で神の宮を再建し、それを団体の宮、すなわち、キリストの奥義的なからだとしました—— 2:19-22：

1. 十字架上で壊されたイエスの体、すなわち、宮は、小さく弱かったのです。しかし、復活において、キリストのからだは広大で、力強いのです—— I コリント 3:16-17. エペソ 1:22-23。

2. 主イエスの復活の日以来、彼は復活の命の中でご自身のからだを拡大しています。彼は復活の過程の下で、ご自身のからだを建造するために依然として働いています——ヨハネ 2:19-22。

3. キリストは復活であり命であって (11:25)、死を命へと変えて神の家を建造

します。クリスチャンとしてのわたしたちの生活は、死を命へと変える生活であり、キリストの奥義的なからだを建造します—— 2:1-21。

C. 御父の家は、三一の神が肉体と成ること、十字架、復活を通してご自身を信者たちの中へと造り込み、彼らと完全にミングリングされる事柄です。それは彼が彼らを有機体として建造し、彼の住まい、また表現とならせるためです—— 14:2-3, 23 :

1. 主が来ることは、神を人の中へともたしました。彼が行くことは、人を神の中へともたしました。この来ることと行くことによって、神を人の中へと建造し、また人を神の中へと建造することによって、彼は神の家を建造します—— 1:14. 10:10 後半. 14:2-3。
2. 神の御子、主イエス・キリストは、その霊によって、また彼の死と復活を通して、有機体である召会を建造しています。それは彼のからだ、また御父の家であり、三一の神と、彼の選ばれ贖われた民とのミングリングによって生み出されます—— 7-24 節。
3. 御父の家には三つの段階があります。それは神が肉体と成る段階、キリストが彼の信者たちと共に復活して、召会として建造される段階、究極的完成の段階、すなわち、新エルサレムです—— 2:19-21. 啓 21:2-3, 9-10。